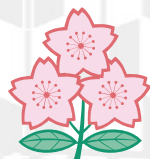


2023年度コーチカンファレンス

タックルの高さに関する試験的実施ルール コーチングのポイントについて

講師：川合 レオ JRFU普及育成委員会コーチング部門



**JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION**

今回のタックルハイトに関連するプレイヤーの役割

- ・ ファーストタックラー
- ・ セカンドタックラー

ファーストタックラー

ポイント

- ・ 大きな指導の変更点はなし
- ・ ハイタックルをしない意識とスキルの向上

セカンドタックラー

ポイント

・ダブルタックルをする際の判断

- 判断とは？
- 腹部に入って押し返す
 - ファーストタックラーにバインドする意識で押し返す
 - 胸で受け止めて引き倒す
 - ボールに絡む
 - 入らない

・オフロードパスへの対応

小学生・中学生年代へのコーチングのお願い

この年代は低いタックルをする意識することにより、飛び込むようなタックルになるケースがある。飛び込むようなタックルは、ヘッドダウンによる頸髄損傷や肩の脱臼などのリスクがある。さらに過度にタックルが強化されることはボールキャリアの内臓損傷のリスクが高まる可能性もある。

過度に低いタックルを求める必要もなく、過度にタックル練習ばかりを増やす必要もなく、今までよりも、高いタックルを減らすという意識で指導して欲しい。

小・中・高校生へのコーチングのお願い

この年代は、安全面のためのコンタクト練習は必要ではあるが、様々なスキルを指導すべき年代でもある。
試合の勝利のためだけにタックル練習ばかりが増えて
しまうことは望まれない。正しいタックルの指導と共に
将来を見据えたスキルの指導も忘れないで欲しい。

全年代のコーチの皆様へのお願い

- ・試合時だけでなく、練習時も含めて、トータルでプレイヤーの安全をマネジメントする
- ・正しいコンタクトスキルを指導すること
- ・レフリー、コーチ、プレイヤーで協力して安全なラグビーを作ること